

川崎重工グループは、創業以来120年以上にわたって常に最先端技術に挑み、数々の「世界初」「日本初」を世の中に送り出してきました。受け継いできた技術力のDNAを未来へつなぎ、多彩な製品と高度な総合技術力によって、社会・環境課題の解決と人々の豊かな生活の実現を目指していきます。

日本の造船業の近代化



1897 「貨客船伊豫丸」
(川崎造船所第一番船)進水

1878-1913

産業革命に端を発する日本の近代化

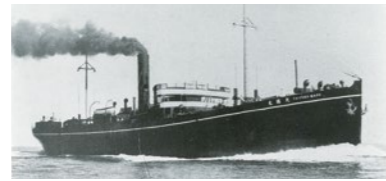
明治維新後の激動の中、安定性のある西洋型船を日本で建造することを目指し、近代造船業に進出しました。次いで、鉄道の将来性に着目し、鉄道車両の製造を開始。日本の近代化を促進しました。

国内鉄道網の整備、便数の増加に貢献



1911 国産化第一号蒸気機関車完成

船舶需要の増加に対応



1916 ストックポートの量産

1914-1945

2度の世界大戦 関東大震災(日本)

新分野への進出を意欲的に進め、海運業、航空機・鉄鋼構造物などの製造へと事業を拡大しました。日本の近代化が進展する中、船舶需要の拡大に応えるとともに、社会インフラ整備に貢献しました。

航空輸送に貢献



1922 当社初の航空機完成

関東大震災後の インフラ復興に貢献



1926 永代橋ほか製作

移動の高速化



1964 0系新幹線納入

生産の自動化、効率化



1969 国産初の産業用ロボット
「川崎ユニメイト2000」誕生

1946-1980

冷戦、モータリゼーション、 オイルショック

高度経済成長(日本)

事業の多角化を推進し、総合重工業として発展。日本初の製品を多く生み出し、日本の高度経済成長を支えました。また、産業プラントの輸出を進め、モーターサイクルではいち早く海外生産を開始。事業のフィールドを世界に広げました。

Kawasakiブランドの確立



1972 「Z1」発売

小規模発電に貢献



1976 国産初のガスタービン発電設備
「PU200」開発

災害対応・救急などの迅速化



1979 「BK117」初飛行

エネルギー輸送に貢献



1981 日本初のLNG運搬船引渡し

1981-2000

IT技術の進展、新興国の成長

バブル経済の発生と崩壊(日本)

高品質・高性能・環境にやさしい製品を希求する社会の要請に応え、多彩な製品を世に送り出しました。生産拠点を世界に拡大し、Kawasakiブランドを広げるとともに、世界各地のインフラ整備に貢献しました。

Ninjaブランドの誕生



1984 「GPz900R」発売

建設機械の高効率化に貢献



1987 斜板形アキシャルピストンポンプ
「K3Vシリーズ」量産開始

移動の利便性向上



1991 英仏海峡海底鉄道トンネル掘削成功

都市ごみ処理に貢献



1997 名古屋市新南陽工場向け
都市ごみ焼却施設完工

生産の自動化、 効率化

1997 半導体・液晶製造装置
向けクリーンロボット「TS520」発売



2001-

持続可能な発展

IoT技術の進展

持続可能な発展がグローバルなテーマとなる中、最先端の技術でエネルギー利用の効率化を推進し、新興国のインフラ整備と発展を促進しました。また、豊かな生活と地球環境の未来を見据え、技術開発を推進しました。

移動の高速化



2004 台湾高速鉄道向け車両初出荷

エネルギー利用の高効率化



2007 カワサキグリーンガスエンジン
世界最高発電効率を達成



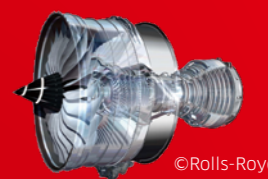
2012 純国産高効率ガスタービン「L30A」
販売開始

経済性、快適性、環境性を 先端技術で実現



2004 ボーイング787ドリームライナーの
開発・生産に参画

燃費を向上、騒音・CO₂および NOx排出を大幅に低減



2009 ロールス・ロイス社の旅客機用エンジン
「Trent XWB」の開発・生産に参画

肥料需要に応え、天然ガス 資源の付加価値向上に寄与



2014 トルクメニスタン最大のアンモニア・
尿素肥料製造プラント完工

燃料電池車の航続距離の 伸長に寄与



2018 ダイムラー社向け「高圧水素減圧弁」開発